

輸出事業計画

※申請者名：株式会社マン・ネン、品目：粉末飲料

1. 輸出における現状と課題

【現状】

当社は長年にわたり、日本国内で粉末飲料（椎茸茶、昆布茶、梅こんぶ茶、とうがらし梅茶、桃抹茶等）および地域食材を活かしたふりかけ製品を製造・販売してまいりました。創業以来、「国産原料へのこだわり」と「素材の持ち味を活かす加工技術」を軸に、安心・安全で風味豊かな商品づくりを行ってきました。粉末飲料については、主力商品の椎茸茶をはじめ、北海道産昆布、和歌山県産南高梅、国産抹茶、国産桃などを使用し、健康志向・自然志向の国内消費者層に広く支持されています。また、ふりかけにおいては、地元農産物や乾物類などの国産素材を活用し、地域資源の有効活用と付加価値創出にも取り組んでおります。近年では、訪日外国人観光客の増加とともに、これらの製品はインバウンド需要の高まりを受けて全国の観光地・土産物店で高い評価を獲得し、実際に多くの訪日観光客の購買行動にもつながっています。特に東南アジア（タイ、ベトナム、台湾など）や中国からの観光客からは、ユニークなフレーバーや日本らしさを感じられる商品として高く評価されており、帰国後もリピート購入やSNSを通じた再注文の依頼が増加しております。このような背景のもと、当社としては国内におけるインバウンド実績を基盤に、今後はアジア圏を中心とした海外市場への輸出展開を本格化させ、海外の消費者にも日本産食品の魅力を届けていく体制を構築したいと考えています。これまで国内で培ってきた商品開発力と品質管理体制を活かし、輸出事業の柱として粉末飲料およびふりかけを位置付け、販路開拓と国際競争力のある製品供給を進めてまいります。

【今後】

1. 認証・品質保証体制の整備輸出事業の根幹となるのは、国際的に通用する品質管理体制です。現在、岐阜県本巣市見延地域にて新工場の設立を進めており、同施設においてFSSC22000の認証取得を令和9年内に完了させる計画です。また、アメリカ市場への本格参入に向けて、FDA施設登録およびPCQI人材の社内配置も進めております。これらの取り組みにより、各国の規制に準拠した輸出が可能となり、信頼性の高い製品供給を実現します。
2. 市場別戦略の明確化と対応強化市場特性を踏まえ、以下のような国別施策を実施します。
 - 台湾・中国：昆布茶や椎茸茶を「飲む粉末飲料」および「調味料」として提案。台湾の椎茸輸入規制への対応も進め、定期的な販路開拓・商品提案を継続。
 - アメリカ：とうがらし梅茶を軸に、スパイシーかつ健康的な和風飲料として展開。UMAMI素材として椎茸茶などの調味料利用も提案。
 - タイ・ベトナム：桃抹茶などフルーツ×抹茶系商品を展開。現地カフェ文化・若年層向けに親和性の高いマーケティングを実施。
 - フランス・EU圏：昆布茶業務用調味料実績を基盤に、椎茸茶を含むUMAMIプロジェクトを本格展開。和食素材の欧州市場定着を狙う。

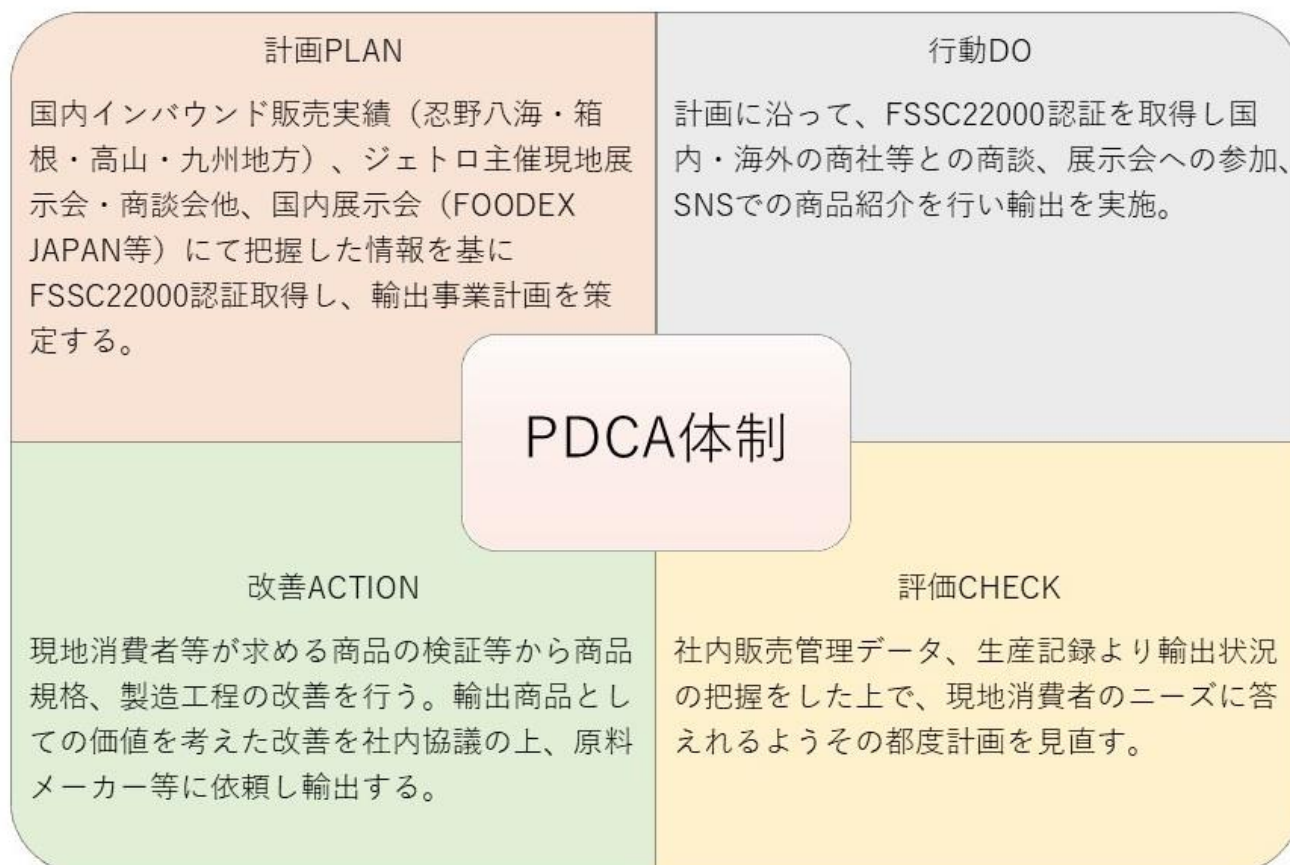
2. 輸出事業計画の取組内容

販路拡大と展示会出展：ジェットロなどを通じた台湾・ベトナム・フランスなどで開催される現地展示会への継続的出展を行い、現地ニーズの把握とバイヤーとの接点を強化します。越境EC・デジタル戦略：楽天市場での国際決済→EMS配送、SNSを活用したプロモーション、インフルエンサーによる訴求などを実施。個人消費者の認知向上とリピート購入を促進します。業務用販路の強化：調味料・UMAMI素材として、飲食店・食品加工業者向け提案を進め、BtoB販路も確立していきます。

輸出体制の構築とパートナー連携輸出の実行体制については、物流・通関・現地販売パートナーと連携し、通関・ラベル対応・品質保持・倉庫管理等までを一体で構築します。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

株式会社マン・ネン輸出拡大に向けた連携体制図



4. 輸出目標額

※輸出先国と輸出する農林水産物・食品の現状及び目標金額を記載すること

		現状 (令和7年10月期)	目標年 (令和13年10月期)
本巣地区	輸出額(千円)	242	50,000
	輸出量 (kg)	186	20,410
	輸出先国	台湾、フランス	台湾・中国・香港・シンガポール・タイ・ベトナム・フランス・アメリカ
	生産量 (kg)	53,040	73,450